平成２０年１１月１７日発行

◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・
・　☆
☆　農業担い手メールマガジン（第１０３号）　・
・　☆
◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・

┏━インデックス━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━┓
┃○　現場の皆さんへ　～経営分析から見えてくるもの～┃
┃○　担い手のための耳寄り新技術┃
┃～大豆の安定多収生産技術「大豆３００Ａ」～┃
┃○　農業担い手経営相談コーナー┃
┃～目的別に補助事業が一覧になった逆引きハンドブック～┃
┗━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━┛

◆◆◆現場の皆さんへ◆◆◆　～経営分析から見えてくるもの～

皆さんは、ご自分の経営について、経営分析を行ってみたことはありますでしょうか。

経営分析とは、農業経営を簿記などのデータに基づいて把握し、経営の改善に繋げるために、問題点を発見したり、経営の強みと弱みを見つける作業のことをいいます。多くの場合、簿記によって得られる財務上の数字に基づいて経営の状態を判断するため、財務分析と同じ意味に捉えることもありますが、将来の経営計画の策定なども含めて幅広い利用ができます。

経営分析を行うためには、まずその前提として、経営全体のお金の流れなどを把握する必要があり、生産物の原価計算ができるくらいの記帳を行う必要があります。そして、その場合の記帳は、資産の状況も把握できるよう複式簿記であることが望まれます。

経営分析の指標にはいろいろなものがありますが、例えば、家族や従業員一人当たりでどれくらいの販売額が得られているか、あるいは販売額に対する機械投資額の大きさなどをみる「生産性」指標のほか、販売額に対する利益率の大きさなどをみる「収益性」指標、収益性指標の年次変化などを見る「成長性」指標、資金の借りすぎなどをチェックする「財務安全性」指標、月別の運転資金額の増減や資金切れなどの危険性をチェックする「キャッシュ・フロー」指標などがあります。

こうした分析を行うと、例えば、「現在の販売額ではパートさんをこれ以上入れるのはまずい」とか、「機械にお金をかけすぎている」とか、「出来秋前に手持ち資金が底をつく可能性が高い」などの経営の具体的な問題点が見えてきます。

もちろん、こうした分析結果が出たら、それを現実の実態と見比べた上で、できる部分から改善して行かなくてはなりません。上の例に則していえば、パートさんを増やす代わりに家族や従業員の仕事の段取りを変えてみたり、機械の規模や導入時期を再検討したり、資材などの購入時期をずらすなどの工夫が考えられます。分析したまま問題を放置したりせず、次につなげる経営改善の一歩として、得られた情報をうまく活用することが何より重要です。

なお、経営分析を実施するにあたっては、まず、ご自分の経営の青色申告書や記帳データをご用意された上で、市町村などに設置されている地域の担い手育成総合支援協議会（担い手協議会）やＪＡ、普及指導センター、あるいは税理士や中小企業診断士等にご相談いただくとよろしいかと思います。なお、全国担い手協議会では、経営分析に有効な「簡易経営診断システム」を近日中（2008年11月中）にホームページ上に公開しますし、各地の普及指導センターやＪＡでは、それぞれの地域の実情に合わせた経営分析ソフトを用意しているところもありますので、併せてご相談いただければと思います。

皆さんも経営分析を生かして、農業経営発展の一歩を踏み出してみましょう。

■　ご意見・ご質問は下記へお願いいたします

→　https://www.voice.maff.go.jp/maff-interactive/people/ShowWebFormAction.do?FORM_NO=120

◆◆◆担い手のための耳寄り新技術◆◆◆

～大豆の安定多収生産技術「大豆300Ａ」～

耕種農家向けに、水田作大豆の安定生産を実現するため、耕起・播種技術の改良を中心とした栽培技術「大豆300Ａ」を、農業・食品産業技術総合研究機構が開発しました。

地域の気象・土壌条件、圃場の湿害の程度によって異なりますが、「不耕起狭畦栽培技術」、「浅耕栽培技術」、「耕うん同時畝立て播種技術」等を地域の状況に合わせて導入することにより、いずれも高収量（300kg／10a）で高品質な大豆生産が期待できます。このように収量が300kg／10aと高く、高品質生産が可能であることが「大豆300Ａ」の名称の由来です。

各技術の主な特徴は次の通りです。

○　不耕起狭畦栽培技術

この技術は、圃場の排水性が比較的良好な大規模経営向けで、不耕起播種を行い、さらに狭畦とすることで中耕・培土も省略可能とすることから、大幅な労力削減を実現します。

（１）耕起・整地作業を省略し、施肥・播種を一工程で行います。慣行栽培に比較して10a当たり約3割の労働時間を削減することが可能です。また、不耕起のため、降雨後も従来より早期に播種作業を再開できます。

（２）播種機械の価格は、６条用が約250万円で、稲・麦の不耕起播種にも利用できるよう汎用化されています。

○　浅耕栽培技術

この技術は、降雨によって地表面に土膜（クラスト）が生じやすい、東海から中国地域に多く分布する赤黄色土向けの技術であり、既存のロータリー播種機の簡易な改造と調整を行うことで、湿害を軽減し収量の増加を実現します。

（１）耕起深度を浅く（5cm）することで出芽の障害となるクラストの発生を抑制するとともに、耕起した部分の両側に深さ15cm程度の溝（小明渠）を作溝すること

で土壌表面の排水性を向上させます。
（２）播種機の改造経費は25万円程度であり、麦栽培にも適用できます（播種機の機種によっては、改造ができない場合があります)。

○　耕うん同時畝立て播種技術
この技術は、圃場の排水性が悪い重粘土転換畑向けの技術であり、砕土性を向上させる「アップカットロータリー」と「畝立て」により、湿害を軽減するとともに増収を実現します。
（１）十分に砕土するとともに畝を同時に作る「アップカットロータリー」を活用し、湿害を軽減し、生産性を向上します。
（２)「アップカットロータリー」の価格は２条用で約70万円、３条用で約110万円です。また、麦やソバ等にも汎用利用が可能です。

このほかにも、各地域に適した大豆の栽培技術が開発されていますので、大豆の安定多収、高品質化に向けて、是非ともご活用いただきたいと思います。

■　大豆300Ａ技術の詳細は、（社）全国農業改良普及支援協会のホームページにある技術マニュアルをご覧下さい
→　https://www.ek-system.ne.jp/www/contents/1176097204351/html/common/46fa165d007.htm

■　大豆300Ａ技術については、以下にお問い合わせ下さい
→　challenge50@naro.affrc.go.jp
（独立行政法人　農業・食品産業技術総合研究機構　中央農研北陸研究センター
研究管理監　寺島宛　新潟県上越市稲田1-2-1　TEL：025-526-3240）

◆◆◆農業担い手経営相談コーナー◆◆◆
～目的別に補助事業が一覧になった逆引きハンドブック～

Q．農林水産省関係の補助事業などは、いろいろなものがあるため、実際にどれが使えるのかよくわかりません。目的別に補助事業が一覧になったような現場で使いやすい資料はありませんか。

A．農林水産省が実施する担い手向けの支援施策には、多様なものがありますが、それぞれの所管部署が異なり、担い手の皆さんの側からみて必ずしも使いやすい状況にはありませんでした。
そこで、この度、全国担い手育成総合支援協議会（担い手協議会）が、担い手向けに目的別の支援施策逆引きハンドブックを作成しましたのでご案内いたします。
このハンドブックは、担い手の皆さんが、例えば「経営の安定化を図りたい」とか「農地の規模拡大を進めたい」と思われたとき、そのページを開けば、利用可能な補助事業等が一覧になっている大変わかりやすいものです。
冊子体のものは担い手協議会で配布しておりますが、担い手協議会のホームページでも同様の資料が掲載されておりますので、是非ご覧いただければと思います。

■　全国担い手育成総合支援協議会の連絡先はこちら
〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8 中央労働基準協会ビル2F 全国農業会議所内
TEL：03-6910-1124

■　「担い手のための施策活用ハンドブック－逆引きマニュアル－」は下記のホームページでもご覧いただけます
→　http://www.nefam.jp/sub/reverse_lookup_manual.html

◇◇◇編集後記◇◇◇

明け方などはかなり冷え込むようになり、東京でもコートを着る姿が目立ってきました。
先日、農業者大学校で開催された講演会で、それぞれベストセラーの本を出版されている果樹の新規就農で成功された宮崎県綾町の杉山経昌氏と、米ヌカの加工で起業した石川県小松市の長田竜太氏のお話を聞く機会がありました。
農業者顔負けの経営センスで観光などを組み合わせた無借金経営を楽しんでいらっしゃる杉山氏と、目を見張るような独創的な発想を次々に実践し、一部上場企業に比肩する評価を得ている長田氏のお話をお伺いし、お二人に共通する経営戦略の明確さと企画力や実行力の高さに、農業経営者の神髄を見たような気がしました。　（Ｓ）

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇
○　電子出版：農業担い手メールマガジン
○　発行日　：毎月２回発行
○　発行元　：農林水産省経営局経営政策課　担当：鈴村
☆　農林水産省担い手ホームページもご覧ください！
～担い手への支援策、認定農業者数等、担い手情報満載！！～
→　http://www.maff.go.jp/j/ninaite/index.html
☆　このメルマガの配信申込み、バックナンバーはこちらから
→　http://www.maff.go.jp/ninaite/mailmagazine.html
☆　このメルマガの配信変更、配信解除、パスワード再発行等はこちらから
→　http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html
◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇